

2022.12-2023.2



# 出張「半井桃水館」展

in 長崎県立長崎図書館郷土資料センター



朝日新聞の戦時通信で宮村寛らが取材中、明治27年3月露軍艦隊の捕虜となり、捕虜の苦に置かれたが、明治38年1月、第三軍司令部乃木希典が人城、水師団長に先立ち連れ出されたことを桃水は記事に記した。

『胡砂吹く風』上下二巻をくたさず、去秋も新しく日録も立派でなかなか分厚い本です。私がさしあげた巻は暗れがましくも日録の前にかつ主人公の林正元の肖像と並んでいた。(よもぎふ日記 明治28年2月23日) 『完全現代語訳 樋口一葉日記』高橋 和彦



『石の嶺』大塚朝日新聞 大正元年11月16日～大正2年2月14日連載は改題され、『定成卿』信文堂書店 大正4年10月20日発行



NAKARAI TOUSUI

長崎県立長崎図書館郷土資料センターの企画展示4「対馬市ゆかりの資料展」が開催されるにあたり、「出張『半井桃水館』展」を展示させていただく機会を得ました。

幕末の対馬に生まれた半井桃水は、本県の近代文学のはじまりとして、旧県立長崎図書館において、明治24年から25年に執筆した『胡砂吹く風』が郷土展示年表の筆頭に掲げられていました。

桃水は、38年間におよび新聞連載小説や雑誌掲載、日露戦争の従軍記事、長唄作詞など様々な執筆をしました。今回、半井桃水や樋口一葉、洗い髪のお妻、半井桃水館の紹介パネルを展示いたしますので、ご覧いただけますようお願いいたします。対馬郷宿が提供して郷土資料センターの企画展で公開される『胡砂吹く風』は対馬島外で初めての公開となり、同じく連載小説新聞スクラップや日露戦争の従軍記事など初公開の資料もあります。ご覧いただいた皆様は桃水に興味を持ち、半井桃水館(対馬市)を訪れていただくことを願っています。

対馬出身 半井桃水が明治・大正時代に連載した小説や日露戦争従軍記事等を展示します！  
「胡砂吹く風(初版本)」 対馬島外初公開



令和4年12月6日(火)～令和5年2月26日(日)

於：長崎県立長崎図書館郷土資料センター

(長崎市立山1丁目1番51号)

NPO 法人 対馬郷宿  
TSUSHIMA GOUSHUKU

「出張『半井桃水館』展 in 長崎県立長崎図書館郷土資料センター」を、ぜひ、ご覧ください。

○期間：令和4年12月6日(火)～令和5年2月26日(日)

○場所：長崎県立長崎図書館郷土資料センター(長崎市立山1丁目1番51号)

企画展示「対馬市ゆかりの資料展」と同時開催

○概要：半井桃水や樋口一葉、洗い髪のお妻、半井桃水館を紹介するパネル展示

※対馬郷宿が提供して郷土資料センターの企画展で公開される『胡砂吹く風(初版本)』は、対馬島外では初めての公開。連載小説新聞スクラップや日露戦争の従軍記事なども初公開。